

女性部活動と地域振興・まちづくり
～福祉に目をむけて～

ときがわ町商工会女性部
部長 小池とみ子

皆さんこんにちは。私は、ただいまご紹介いただきました、ときがわ町商工会女性部、部長をおおせつかって居ります小池とみ子と申します。

本日は、「福祉に目をむけて」ということでお話させていただきます。

ある役員会の時の事です。何げない会話の中で、「これから被災地、東北の方も寒くなって大変だよね。」という話が出ました。

私達に、何か出来る事はないだろうか。又、私達主婦としては現地へ行くのもなかなか難しいしと話して居た時に「毛糸の手編みの帽子なら、私達でも家事の合間にも出来るのではないかしら。」という意見が出ました。

しかし、女性部は年間を通してほとんど毎月のように事業の予定が入っており、特にはずすことの出来ない大きな事業が3回組み込まれて居ります。

その最初の行事が、8月の“納涼まつり”です。

櫓に付ける花作りが1ヶ月前から始まり、祭り当日は来賓や来場者へのビール・麦茶の接待。幼稚園児から始まる踊りのコーナーでの、こども達へのお菓子のプレゼント。その外、各団体の方々や踊りのグループの参加の準備、そして私達も浴衣を着て一緒に踊りに参加するという様なプログラムになって居るのです。

真夏の熱い夜ですが、会場に来られた方々の熱気でより一層祭りが盛り上がります。

2つ目は、10月の“もみじ太鼓まつり”です。

紅葉が輝き始めた山の麓に、すずめ川ダムという場所があり、秋は田んぼの稲穂が一面に黄金色になり山の紅葉と一帯して素晴らしい場所が舞台となり、県内の太鼓愛好家が集結し、おのおの見事な音色が山肌にこだまします。

そこでの早朝からの“とん汁”の調理と販売になります。肌寒い山中では温かいとん汁が好評で、短時間で完売になってしまう程です。

そして、最後の3つ目ですが、11月の“産業祭”です。

この行事は一年の内でも最大のイベントになります。“五目ちらし寿司”の調理と販売となります。

前日に具材を煮込んで下準備をしておき、当日は早朝より作業に取りかかります。約千食の“五目ちらし寿司”はアツと言う間に完売してしまう程の人気メニューです。

そして、それらの行事の合間に、「健康関係の講習会」や「生け花」「ガーデニングなどの教養講習会」につづき「議会の傍聴」、「県外研修」などの行事が盛りだくさんに毎月計画されています。

そんな訳で、この上、帽子作りをはじめ、これ以上役員や部員の皆さんに負担を掛けるのではないかと心配でした。ところが役員の方々は、私の心配をよそに「やりましょう！ 作って送らしましょう！」と話はどんどんと盛り上がり行きました。

部員の中で、編み物が得意な方に講師をしていただき、早速帽子作りの講習会が始まる事になりました。毛糸は、部でも購入しましたが部員さんの自宅に眠っている毛糸が沢山集まりました。中には女性部が帽子を作っていることを聞きつけて、部員さん以外の方からも毛糸をいただきました。

そして、色とりどりの、大小様々で型も不揃いですが心のこもった帽子が出来上がりました。

最終的に、帽子154個、マフラー20本、その他の小物など、計185点ほど出来上がりました。それを一つ一つラッピングして、湯たんぽと一緒にときがわ町のボランティアグループが陸前高田へ行くトラックに乗せていただき、届けていただきました。

しばらくして、私達も忘れていたある日のこと、金沢大学の学生さんから商工会へ一通のメールが届きました。

そこには、暖かい言葉と共に、私達があの時送った色とりどりの帽子をかぶて居る様子の写真が添付されて居ました。

学生さんは、帽子をラッピングした袋の片隅に小さく貼ってあった“ときがわ町商工会女性部”のシールに気づいていただき私達商工会へメールを送ってくれたそうです。

思いがけないメールにビックリすると同時に、被災地の皆さんに喜んで頂けたのだということがわかり、部員一同、安堵感が生まれました。

この時、人と人との繋がりとは素晴らしいものだな、と改めて感じさせられました。

この事を機に、部員の皆さんから「手の運動になるから。ボケ防止になるから。又編み物を始めましょうよ。」と言う声が多く聞こえて来ました。

私としては、又、役員や部員の負担になるのではと心配も有りましたが、編み物が得意な部員さんが積極的に講師を引受けてくれて、毎月4回の講習会を開催して居ます。

編み物は、昔やった事が有ってもしばらく忘れていた方、今回初めて編み物にチャレンジしてみようという方等、年齢も若い子育て中のお母さんから、沢山お孫さんがいるおばあちゃんまで様々ですが、おしゃべりをしたり、お菓子や、自作の梅干しや漬け物を持ち寄ってお茶飲みをしながらの講習会です。

時には、持参した漬け物のレシピを披露したりと、編み物以外でも勉強になる事も沢山有ります。

そんな調子で、とても楽しい講習会で時間の経つのも忘れてやっています。

中には、体調をくずしてここ数年ほとんどの事業や旅行にも参加出来なかった方が「編み物は好きだし、座ったままで出来るし、何処でも出来るので、とっても楽しみ！」と言ってくれて、優しいご主人が毎回、商工会まで送り迎えして来ている方も居ます。そんな様子を見ていると、私達も嬉しくなってしまうます。

この事が有ってから、「町の介護施設等にも何か私達にも出来る事はないだろうか。」という話が持ち上がりました。

手作りで、誰でも簡単に出来る物と考えて居た時に、「何処の家庭にでも、贈答品のタオルや名入れタオルが眠っているのではないかしら。」「それを利用して何か作ろうよ。」という話になりました。

早速、手探りの状態で、お手ふきタオルの作成に取りかかりました。ミシンやアイロンを持ち寄って、タオルにレースやリボンを付けました。名入れのタオルには、名前がかくれるようにレースをドレスのように沢山付けました。ラックに掛かる部分はドレスのウエスト部分の様に折りたたんでキュッと絞り込みました。まるでドレスのようなお手ふきタオルの完成です。

最初は買って来た丸いラックに掛けるだけの予定でしたが、タオルが完成してみると、もっと可愛くしたくなって来ました。すると、たまたま並行して行っていた編み物教室の方達が、ラックの部分に毛糸で可愛い人形を作ってくれました。まるで毛糸の人形が、タオル地の豪華なドレスを来ているように出来上がりました。これが通称“ドレスタオル”です。

一枚の平凡なタオルが“ドレス”という言葉が付くほどに大変身しました。

これを、みんなで近くの老人介護施設にお届けしました。

おどろいたことに、涙を流して喜んでくれた方、袋から出したり入れたりして大事そうに、まるで赤ちゃんを抱っこする様に喜んでくれた方もいらっしゃいました。そんな様子にふれ、私達も目頭が熱くなって来ました。

私達が帰る時には、おじちゃん、おばちゃん達が笑顔で手を振って見送ってくれました。逆に私達の方が励まされたような一時でした。

又、後日聞いたところ、中には「使うのがもったいない。」と部屋のインテリアにしている方もいらっしゃるそうです。

町内に何か所も有る施設に順番に届けて、細く長く続けて行こうと考えて居ります。

私達商工会も合併して7年目に入りました。最初は各々の事業の事などで意見も大分、分かれた事も有りましたが、このような事業を通して皆が一致団結して、取り組んでくれたことが、本当の意味で一つになれたような気がします。部員みんなの気持ちが、私としては驚きで有り又、大変嬉しかった事です。

私達のささやかなボランティア活動ですが、まだまだスタートの段階に過ぎません。

少しずつ、焦らず、気長に、をモットーに前進して行けたらと思って居ります。

以上でときがわ町商工会女性部の発表を終わらせて頂きます。

誠に静聴有難うございました。